

町田市市長候補宛公開質問状の回答まとめ

* 2018年2月4日に町田市市長候補宛に送付し、締切の2月14日までに届いた回答を暫定版として2月17日の第10回学習会で公表、その後届いた回答も加えて、改めて報告するものです。 2018.2.19.まちだ未来の会

1		2			3			4			5			6	
住みたくなる町とは商業的な賑わいだけでなく「やすらぎ」や「ふれあい」のある町		身近なコミュニティに多様なサービスを提供する拠点をきめ細かく作る			公共施設を長持ちさせる「長寿命化」こそが大切。「集約・統合」して建物を新たに作るよりも施設の補修や減築、市民の協力によって現存する建物を使い続ける			バランスの取れた財政配分が重要。新設される施設等の存在意義について多数の市民の合意を得る			活動の拠点となる施設（自由民権資料館、博物館、文学館、図書館など）を、市民の多様な参画によって維持することを目指す			その他、貴台が市政を進める上で重要だと考えておられること	
賛成であり、その方向で市政を進めたい	賛成できない	その理由	賛成であり、その方向で市政を進めたい	賛成できない	その理由	賛成であり、その方向で市政を進めたい	賛成できない	その理由	賛成であり、その方向で市政を進めたい	賛成できない	その理由	賛成であり、その方向で市政を進めたい	賛成できない	その理由	
石阪丈一	○		○			○			○			○			まちづくりや暮らしの豊かさを維持・向上させる政策や施策は、よく言われる「市政を進める車の両輪」としての首長と議会については、うまく機能しているとは言えない。そこで、それに加えて”3つ目の車輪”として市民の協議体が必要と考える。現在の各地区の”地区協議会”をベースにさらに市民による政治への直接参加を進めていきたい。
河辺康太郎	○	地域のコミュニティを活性化することを行政がもっと支援できるようにしたい。地域で買い物ができるための賑わいとは両立すべきことで、対立することではない。	○		生活圏に必要な公共施設を再配置することをした。そのことと今後予測される人口減少に対応したコンパクトシティへの都市構造の改変は対立することではない。生活圏を考量した都市計画を策定します。	○		現状の公共施設の見直しは白紙化して、市民とともに再検討したい。	○		皆さんと話し合いながらこの町田の未来を作りたい。もっといい解決方法を市民の皆さんもお持ちだからです。皆さんからのご提案をいただきたい。	○		皆さんと話し合いながらこの町田の未来を作りたい。もっといい解決方法を市民の皆さんもお持ちだからです。皆さんからのご提案をいただきたい。	皆さんと話し合いながらこの町田の未来を作りたい。もっといい解決方法を市民の皆さんもお持ちだからです。皆さんからのご提案をいただきたい。
木原信義	○		○			○		市民の暮らし・文化を充実させる観点から、白紙に戻し、見直す。	○			○			現在のトップダウンの政治から、市民目線の政治へ。大型開発優先から市民の暮らし優先へ。中学校全員給食の実現。